

自分たちにできることは？②（青少年委員・ブロック別定例会）

7月に行われたブロック別定例会での意見交換では、杉並区教育ビジョン2022を拠り所に、地教連（地域教育連絡協議会）や地教推（地域教育推進協議会）などで自分たちに何ができるかを話合いました。

今回は、7月の意見交換を受けて以下の3つの視点で話し合いを進めました。

- ① 私が「実践できそう」と新たに気付いたこと
- ② 私が「何かしてみよう」と思ったときに感じた課題
- ③ 私が実際に「やってみて」手応えを感じたこと

杉並区教育ビジョン2022で大切にしたい教育として「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を掲げていますが、これは明確な答えがあるものではありません。自分なりに考え、それを他者との対話を通して交流しながら、また自分なりに考えていく...それはすぐには解決しない、すっきりしないモヤモヤに耐えることに近いかもしれません。でも、様々な考えが入り混じる中で、ふいに自分にストーンと落ちる言葉や考えが生まれたり、関係ないと思っていた話にヒントが隠れていたりするものです。忙しい毎日ですが、こうした時間も大切なのかもしれません。

一人ひとりが教育の当事者として心がける視点

- 1 子どもの思いを尊重する
- 2 ちがいを受け入れる
- 3 対話を大切にする
- 4 学びの成果を贈り合う
- 5 社会を創る当事者として考える

～「杉並区教育ビジョン2022」より～

もっと積極的に子どもと関わる機会を設けていこうと思う。

異学年が交流することで、豊かな学びになると感じた。

違いを認める、違う意見を受け入れる、だとすると「何でもあり」にならないか？

青少年委員として子促（子ども地域活動促進事業）の進め方を模索している。学校にも寄り添っていきたい。

子どもたちの声が聴けると嬉しい。

活動に対して、子どもや地域関係者から「よかったよ。」という言葉が直接聞けた。

「対話する」ことへの関係者の欲求が高いことに気付いた。

生徒が主体的に関わる活動が多いと、結果として生徒の自主性や地域への意識も高まるのでは...

青少年委員として、新ビジョンの認知度を高めていきたい。

活動を通して得られる楽しさを、どのように共有するか。

